

確かな学びと豊かな心・健やかな体をはぐむ 学校力向上プラン【学校評価計画書】

中学校区におけるめざす子ども像
自分のよさを知り、失敗を恐れなくて挑戦する子

令和7年度 重点目標
『 かかわりを学びに 』 ～どの子ども学びの手応えを実感できる授業づくり [話す・聞くを軸にした学び]～

<p>確かな学びの現状</p> <p>令和6年度全国学力・学習状況調査の結果では、国語・算数における正答率が大阪府平均・全国平均をすべて上回っていた。また、「すくすくウォッチ」の結果でも正答率は大阪府平均を上回っていた。そのため、児童の学びは良好な状態を維持していると考えられる。</p> <p>一方で全国学力・学習状況調査の結果において、「学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができているか」などの思考力・判断力・表現力等に関するアンケート項目では、肯定的な回答率が低く、学年が上がるにつれて下降傾向にあるという課題が残っている。これらの課題に対して、相手意識や目的意識をもって話す活動や、友だちとの考えの共通点や相違点に着目して聞く活動、考えを再構築するための交流などを重視した指導に取り組む。また、学びの基礎をしっかりと固め、人とかかわりの中で学びの手応えを実感できる授業づくりを重点目標とし、家庭学習の手引きの活用による学力の維持にも取り組んでいく必要がある。</p>	<p>豊かな心・健やかな体の現状</p> <p>全国体力運動能力調査では、どの種目も全国平均に近い値になってはいるが、平均を下回る種目がほとんどである。</p> <p>昨年度に引き続き、堺っ子体操を重点的にを行い、体づくりの運動を行う。また、休み時間は各クラスで「みんな遊び」を実践するなど、休み時間になったら外に出て体を動かす機会を設ける。</p> <p>防災教育では、昨年度から高まる南海トラフ地震の発生の危険性に備え、自ら考え、命を守る行動をとろうとする児童の育成が必要なのではないかと考える。そのため、避難訓練を通して、実際に地震が発生したことを想定し、児童自身にどうすればよいかを考える機会を設け、練習ではなく命を守る行動を意識する取り組みを行う。</p>
---	--

大項目	中項目	具体目標	具体的な取組 (●重点とする取組 ★中学校区での取組)	判断基準 (評価のものさし)	評価方法	評価時期	進捗確認 (～10月)	達成状況(年度末)	
								自己評価	学校関係者評価
確かな学び	教科学習	確かな学力を育む 授業づくりをする	●校内研修による授業力の向上に努める。研修は、主に「話す・聞く」を軸とした日々の実践の積み重ね、研究授業と教科等研修委員会での実践交流により進めていく。	A:実践交流の実施状況(月1回実践共有) B:児童アンケートで肯定的回答85%以上	A:実施状況 B:児童アンケート	学年末			
			○家庭学習等の共通理解による学力向上に努める。自主学習の手引きをもとに、学習習慣の獲得を促進する。	児童アンケートで肯定的回答75%以上	児童アンケート	学年末			
			○生活科・総合的な学習を中心とするカリキュラム・マネジメントの推進を図る。高学年を中心に、学習における児童生徒使用パソコンの活用を推進する。	A:カリキュラム・マネジメントの実施の有無 B:児童アンケートの肯定的回答75%以上	A:実施状況 B:児童アンケート	学年末			
豊かな心	特別支援教育	一人一人の課題を把握し、課題に沿った教育を行う	○ひまわり学級:それぞれの児童の特性を踏まえた個別の指導を行い、達成感を感じつつ、成功体験を積み上げ、自己肯定感を育てる。また、集団の中で自分を生かす活動できるように支援する。	教育支援計画、個別の指導計画をもとに評価する。達成率80%以上	教育支援計画 個別の指導計画	学年末			
			○ひばり教室:通常学級の困り感のある児童に対して、担任・家庭と連携しながら、個々の支援ニーズを把握し、改善・克服を目的とした、個別のトレーニングによるスキルアップを図る。	個別の指導計画をもとに評価する。	個別の指導計画	学年末			
			○通常学級:ユニバーサル・デザインを意識した学級経営を行い、だれもが「わかる、できる」授業づくり、またそれぞれの児童が「居場所」を感じられる学級づくりをめざす。	達成率80%以上	児童アンケート	学年末			
豊かな心・健やかな体	道徳・人権	豊かな心を育む 道徳・人権教育をおこなう	○「考え、議論する道徳」に向け、公開授業を年1回以上行う。また、いじめを自分自身のこととして、多面的・多角的に考え、自分と同じように他者を尊重する態度を育む。	公開授業を行い、実践交流する。	公開授業	学年末			
			●なかまづくり(人と環境づくりを軸として、一人ひとりが認められ、高め合う集団を育成する):自分認め、相手も認めることができるような取り組みを成長段階に応じて行う。・自他共に認め合う態度を醸成することで、寛容さと謙虚さが一体となった広い心を育み、互いに高め合う。	A:グループワークを実施し、その内容と効果を報告する。 B:児童アンケートの肯定的回答80%	A:実践報告 B:児童アンケート	学年末			
	生徒指導	笑顔あふれる 学校づくりをする	●生徒指導:・ルールの必要性に児童自らが気づき、すすんで行動できる指導を行う。(朝礼での啓発、隔月の生活目標の設定、児童会からの働きかけ) ・不登校対応の協力体制、いじめ防止推進研修、ともだちアンケートの実施 ・いじめ早期発見と早期解決・関係機関との協力・児童の心のケア・組織的対応	児童アンケートの肯定的回答90%以上	児童アンケート	学年末			
			○児童活動 ・児童が自ら課題を見つけ、主体的に取り組む学校づくりをすすめる。(児童議会、児童会役員選出・活動、児童による啓発)	児童アンケートの肯定的回答90%以上	児童アンケート	学年末			
保健・体育・給食	学力を支える 健やかな体を育成する	○保健:学校災害発生の防止(アイタイム継続)、心身の健康課題の早期発見および組織的対応。	ケース会議の実施、HP,ほけんだより 掲示物を活用した啓発	実施状況	学年末				
		○体育:授業の初めに「新堺っ子体操」を実施することや、限られた場所でも運動量を確保する工夫を小学校体育指導の手引を使って行うことで、健康の保持増進と体力の向上をめざす。そのため、職員研修(若手研等)の実施や委員会活動による児童への啓発を行う。	児童アンケートの肯定的回答85%以上	研修実施状況 職員アンケート	学年末				
		○給食:健康行動の形成・維持を目標とし、栄養バランスを理解して、朝食・給食を摂る態度を育成する。そのため、給食前の衛生点検や委員会活動による児童への啓発を行う。	児童アンケートの肯定的回答80%以上	点検結果 児童アンケート	学年末				
幼小中一貫	長所を伸ばそうとする 態度や、粘り強く取り組む 態度を養う	○安全指導:学校安全マニュアルをもとに、日常から全職員が災害や事故対策を徹底したり、児童も意識できるよう指導したりして、安心安全な学校にする。そのために、避難訓練を実施したり、職員研修を実施したりする。	A:児童アンケート肯定的回答85%以上 B:職員研修の実施	A:児童アンケート B:研修実施状況	学年末				
		★キャリア教育、いのちの授業など、自分自身を見つめる活動を取り入れる。	各学習の実施の有無	実施状況	学年末				
地域協働	コミュニティ・スクールを 推進する	●地域資源(人材等)の活用により、生活・総合的学習や防災・キャリア・環境教育等を充実させる。	学習の中で、計画的に地域資源を活用する	実施状況	学年末				
		○学校力向上プラン、日常的な学校教育活動をHPや学校通信等を通じて積極的に発信する。	A:プリント、HP、学校通信で積極的に発信する B:保護者アンケートの肯定的回答85%以上	A:実施状況 B:保護者アンケート	学年末				

--	--